

那珂川市の文化財3
那珂川町
の記録

2021 那珂川市教育委員会

出典：国土地理院
平成30年の航空写真

はじめに

那珂川市の前身である筑紫郡那珂川町は、南畑村・岩戸村・安徳村の3つの「村」が、昭和31年に合併して誕生しました。町の発足時の人口は8,948人でした。その後、土地の区画整理や博多南線の開業等により人口が増加し、町誕生から約60年後の平成30年10月、福岡県内では29番目、全国では792番目の市として那珂川市が誕生しました。

現在、那珂川町以前の村の様子は、わずかに残った資料からうかがい知ることができるだけです。そこで、市政施行前の那珂川町の記録を少しでも残すために、これまで町で使われてきた道具に注目し、それらを貴重な「資料」として収集・保管することになりました。

本誌では、小・中学校の校門に使われた銘板や役所^{めいぼん}で使われた公印、消防団の備品、住居表示に使われた表示板などの町に関する資料を紹介します。今はまだこれらの資料は目新しいものですが、当時のことを物語るってくれる語り部であり、貴重な資料といえます。本誌が那珂川市の歴史を知るきっかけとなれば幸いです。

小・中学校

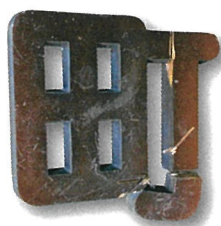
私たちにとって身近な学校の表示が町から市に変わっています。下の写真は各小・中学校の校門に設置されていた銘板です。「町立」と記載されているのがわかります。また、銘板の使用開始年を見ると、ほとんどの銘板が学校創立当初から使用されており、特に南畑小学校は古く昭和31年から使用されていました。



▲昭和50年から使用



▲平成8年から使用



◀平成27年から使用
岩戸北小学校は
「町」の部分のみを
取替えました。



▲昭和50年から使用



▲昭和58年から使用



▲昭和41年から使用



▲昭和55年から使用



▲平成16年から使用



◀ 昭和31年から使用

安徳小学校の銘板がない!?

安徳小学校だけは、銘板の取り外しができなかったため、現在は古い銘板の上から新しい銘板を付けています。このような経緯も資料の収集に合わせて記録しておくことが重要です。

校旗も収集しています



片縄小学校



安徳小学校



那珂川北中学校

合併した学校

ここでは、合併した学校を写真や資料で紹介します。

● 五ヶ山小学校

明治7年に創立し、昭和41年に南畑小学校と合併しました。



出典:「郷土誌 那珂川」那珂川町教育委員会1976

● 西畑小学校

明治37年に岩戸尋常小学校から分離独立し、昭和40年に岩戸小学校と合併しました。

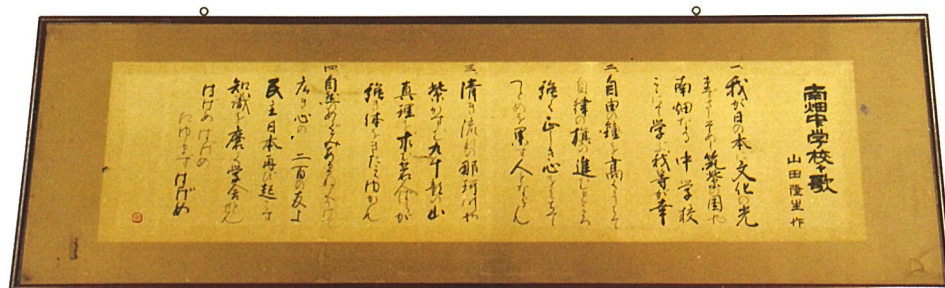


出典:「創立百周年記念誌 柊檀」
創立百周年記念事業実行委員会2002

● 天徳中学校と南畑中学校



◀ 天徳中学校の銘板



▲ 南畑中学校の校歌

天徳中学校、南畑中学校は昭和22年に創立しました。天徳中学校は現在の那珂川中学校が建つ場所（仲）、南畑中学校は現在の南畑小学校が建つ場所（大字埋金）の東側に校舎がありました。昭和41年、2つの学校が合併し、那珂川中学校と改称しました。

消防団

ここでは消防団の資料を紹介します。消防団とは、消防署と協力しながら地域に密着した消防活動を行う自営組織です。各村の消防団は、昭和31年から那珂川町消防団として、平成30年10月からは那珂川市消防団として活動をスタートいたしました。



活動服▶



▶ 出初式などで着用^{はっぴ}の法被^{で ぞめしき}



▲那珂川町消防団旗



▲那珂川町消防団第一分団



▲那珂川町消防団第二分団



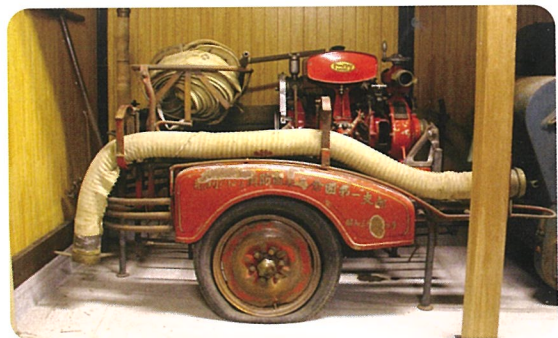
▲那珂川町消防団第三分団

消防活動で使われていました!!



▲安徳村で使用されていた半鐘。

安徳村で使われていた^{はんしやう}半鐘です。この半鐘を叩いて火事を知らせていました。側面に「安徳村消防^{だん}団昭和三十年九月一日」と記載されています。



▲ポンプ車
昭和30年代から那珂川町消防団第三分団第一支部で使われていました。

町役場で使われていた公印を一部紹介します。今回、本誌に掲載している公印に共通しているのは「筑紫郡」という表記が入っていることです。さて、この筑紫郡とはいったいどのような地域だったのでしょうか。公印の紹介と合わせて筑紫郡の流れにも少し触れてみたいと思います。時代と共に、少しずつ地域の名前が変わっていることがわかります。



▲福岡県筑紫郡那珂川町教育委員会印



▲筑紫郡安徳小学校印



▲筑紫郡那珂川町立岩戸北小学校之印



▲福岡県筑紫郡片縄小学校印

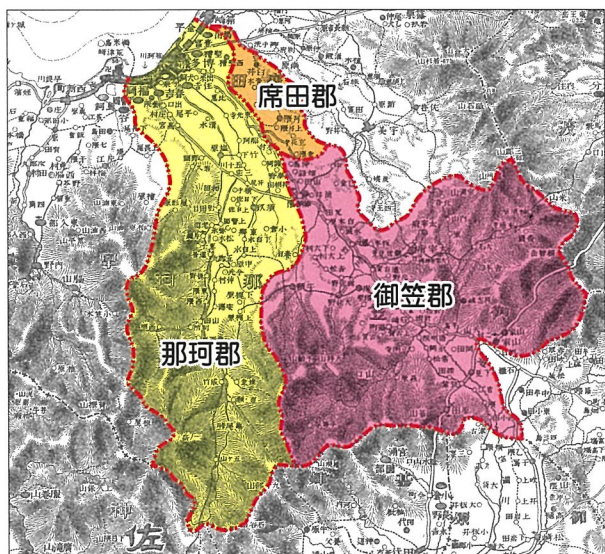
筑紫郡とは

明治29年御笠郡（現在の筑紫野市・大野城市・太宰府市）、那珂郡（現在の福岡市の一部地域・春日市・那珂川市）、^{みかさ}席田郡（現在の福岡市の一部地域）が合併して筑紫郡が誕生しました。当時、郡は地域を統括する市町村のような役目を果たしており、郡の役場が現在の那珂川市山田にありました。しかし、大正12年郡制が廃止されたことにより、郡は名前だけが残る形となりました。

大正から昭和にかけて^{けご}警固村、^{とよひら}豊平村、^{すみよし}住吉村、^{やはた}八幡村、^{かたかす}堅粕村、^{ちよ}千代村、^{むしろだ}席田村、^{みやけ}三宅村、^{おさ}臼佐村、^な那珂村は、順に福岡市に合併されました。それによって、筑紫郡は12町村（旧御笠郡・南畑村・岩戸村・安徳村・春日村）で構成されることとなりました。

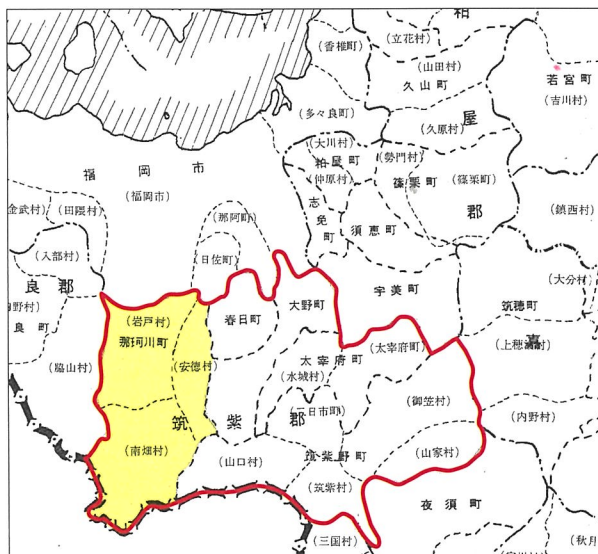
昭和25年に大野村が町に、昭和28年には春日村が町に変わりました。そして、昭和30年の町村合併法によって、二日市町・山口村・筑紫村・^{やまゑ}山家村・御笠村が合併して筑紫野町が、太宰府町と水城村が合併して太宰府町となりました。翌年の昭和31年には南畑村・岩戸村・安徳村が合併して那珂川町が誕生しました。

昭和47年には、筑紫野町・大野城町・春日町がそれぞれ「市」になり、次いで昭和57年には太宰府町が「市」となりました。これによって、筑紫郡是那珂川町だけになりました。しかし平成30年には、那珂川町が「市」に変わったことにより、一つの時代を反映した「筑紫郡」という表記はなくなりました。



明治22年頃の御笠郡・那珂郡・席田郡

出典:『日本歴史地名体系第41巻福岡県の地名2004平凡社』
特別付録福岡県全図明治22年を加工使用



昭和40年頃の筑紫郡

出典:『福岡県町村誌1965福岡県町村会・福岡県町村議会議長会』
福岡県市町村現況図昭和40年を加工使用

番地や境界を示すもの

私たちの周りにある表示に目を向けてみましょう。番地や境界を示すものも「町」から「市」に表示が変わっています。一度、身の周りの表示に注目してみてもいいでしょうか。



境界を示すものには杭タイプのものや、プレートタイプのものなど様々な形があります。

また、町名や街区を表示する看板には青色や緑色といった色々なものがあります。

昔からあった!!境界を示すもの～国境石(くにざかいし)～

国境石ってなに??

江戸時代の初め頃に、筑前国ちくぜんのかくに（福岡県）の村と肥前国ひぜんのかくに（佐賀県）の村が、境界をめくり争っていました。そのため、国の境目を示す石を建てて、村々の境界をはっきりさせました。本市には、筑前国側に30基、肥前国側に9基、類似の碑文ひふん4基の合計43基が建てられました。



正面には「従是西北筑前領(これより西北が筑前領)」と書かれています。



「従是東肥前領(これより東が肥前領)」と書かれています。

※もっと知りたい方は、「国境石 那珂川町文化財ハンドブック2002 那珂川町教育委員会」(有料200円)をご覧ください。

おわりに

市制施行に伴って、収集・保管した資料は約100点にも及びます。今回紹介した資料はそのうちの28点で、すでに保管されていた資料4点も併せて紹介しました。また、資料を通して那珂川市へ移り変わっていく様子も、知ることができたのではないのでしょうか。

村や市の名称は、時代や制度と共に変わっていきませんが、私たちの住んでいるこの場所は変わることなく、生活を育み、歴史をつむいでいます。これらの資料が物語るように、昔からの人々の生活の上に現在の那珂川市があります。これからの私たちにできることは、これらの資料を後世に残し、この歴史を伝えていくことなのです。

村から那珂川市になるまでの年表

和 暦	主な出来事	人口の推移
明 治		
4	廃藩置県により、福岡県那珂郡の誕生	22 年 6,271 人 (3 村の合計人口)
7	南畑小学校（成竹）、五ヶ山小学校（網取）、岩戸小学校（別所）、安徳小学校（松木）に創立	
22	町村制施行により南畑村・岩戸村・安徳村ができる	
29	御笠郡、那珂郡、席田郡が合併して筑紫郡となる	
30	西畑小学校創立	
大 正		
12	郡制廃止	
昭 和		
22	南畑中学校、天徳中学校創立	31 年 8,948 人
29	* 岩戸神楽が福岡県初の県指定無形民俗文化財となる	
31	南畑村・岩戸村・安徳村が合併し、那珂川町が誕生 那珂川町消防団発足	
37	* 安徳の工ノキ、釣垂のヒノキンダが県指定天然記念物となる	
38	* 成竹のモチノキ、市ノ瀬のヤマモモ、日吉神社のオガタマが県指定天然記念物となる	
40	後野（福岡女子商業高校旧校舎跡）に中央公民館設置	40 年 8,859 人
	南畑ダム完成	52 年 20,305 人
41	那珂川中学校創立（南畑中学校と天徳中学校が合併して設立） 五ヶ山小学校が南畑小学校に統合される * 山中のアセビが県指定天然記念物となる	
49	土地区画整理事業工事着工（岩戸地区、安徳地区）	
50	安徳北小学校創立（安徳小学校より分離独立） 岩戸北小学校創立（岩戸小学校より分離独立）	
51	新幹線博多総合車両基地完成 那珂川町消防本部発足 町木「ヤマモモ」、町花「筑紫シャクナゲ」に制定する	
52	西隈に消防庁舎完成	
55	那珂川南中学校創立	
58	片縄小学校創立	
平 成		
2	J R博多南線の開業	9 年 44,712 人
6	ミリカローデン那珂川落成	
9	* 妙法寺 2 号墳出土遺物一括、三角縁神獣鏡が初の町指定有形文化財となる	
10	* 現人神社の「正徳四年」銘石鳥居及び「現人大明神」額が町指定有形文化財となる	
11	* 丸ノ口古墳群（Ⅴ群 5 号墳及びⅥ群 2 号墳）が町指定史跡となる * 岩戸神楽古道具一括が町指定有形民俗文化財となる	
14	* 山田のイチョウが町指定天然記念物となる	
16	那珂川北中学校創立	
17	* 見返り燈籠（燈とぼし）が町指定有形民俗文化財となる	
18	* エゲ古墳主体部出土遺物一括が町指定有形文化財となる	
23	九州新幹線全線開業	
25	* 安徳台遺跡群 2 号棺・5 号棺及び出土遺物一括が町指定有形文化財となる	
28	* 安徳大塚古墳が本町初の国指定史跡となる	
30	五ヶ山ダム完成 10 月 1 日 那珂川市誕生	
31	* 安徳台遺跡が本市第 2 号の国指定史跡となる	28 年 50,004 人

* 文化財関係の出来事

A black and white aerial photograph of a rural landscape. A river flows from the top left towards the bottom right. The land is divided into numerous rectangular fields, some of which are dark, possibly indicating water or dense vegetation. There are several small clusters of buildings, likely villages or farmsteads, scattered throughout the landscape. The overall scene depicts a typical rural landscape from the mid-20th century.

裏表紙の写真は昭和47年撮影の
航空写真です。表紙の写真は平成
30年撮影の航空写真です。冊子を
広げて、見比べてみましょう。

那珂川市の文化財3
那珂川町の記録
2021

発行：那珂川市教育委員会
福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号
印刷：有限会社 成光社
福岡市南区大楠1丁目29番33号

出典：国土地理院 昭和47年の航空写真